

平成 29 年度  
沖縄県立芸術大学  
大学院造形芸術研究科生活造形専攻

小論文 問題

<問題>

工芸における表現と制約の関係について、あなたの作品制作を通して、800 字から 1000 字以内で論述しなさい。

## 【染研究室・実技試験】

問題： 型染を想定して、配付されたモチーフの中から2種類以上のモチーフを使い、型紙図案をケントボードに制作しなさい。

モチーフ：・白菊  
・グラジオラス  
・アレカヤシの葉  
・リボン

### 制作上の注意事項

- ① ケントボードの裏面、受験番号欄に自分の受験番号を記載すること。
- ② 裏面に図案の上下がわかるように矢印（↑）で上を明記すること。
- ③ 型紙図案の大きさは、42cm×30cmで、縦・横使い自由。
- ④ 42cm×30cmの枠は、ケントボードの中央に収まるようにする。
- ⑤ 型紙図案で、配色する模様には黒（アクリルガッシュ）で着色し、糊防染する箇所は、白（紙の色）で残す。  
配付した絵具の白は、修正で使用しても良い。または使用しなくても良い。
- ⑥ カーボン紙、トレーシングペーパー、下書き用紙は型紙図案制作のために、自由に使用しなさい。または使用しなくてもよい。
- ⑦ すべての配付物は、持ち帰らないこと。



平成29年度  
沖縄県立芸術大学  
大学院造形芸術研究科生活造形専攻  
工芸専修 織 実技試験問題

自然をテーマに下記の条件で、壁面装飾布の織物デザインをなさい。

( 記 )

- 技 法 : 経縞と緯縞を使用する ( 格子は不可 )
- 寸 法 : 幅 180cm × 長さ 240cm ( 90cm幅の2枚組 )
- 色 彩 : 全体図のデザインが分かる様に着色  
( 縮尺 1 / 10 )
- 答案用紙 : B3 ケント紙 1 枚
- 下書用紙 : B3 方眼紙 2 枚
- 実技解答用紙を記入する事

平成29年度 沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科

生活造形専攻工芸専修

陶磁器研究室 実技試験問題

**【問題1】** 制作時間 9:00~10:00

用意された粘土（白土）を使用し、指定されたトンボを用いて1時間以内で轆轤を用いて碗を数挽きしなさい。

**【問題2】** 制作時間 10:00~12:00

用意された粘土（白土）を使用し、直径20cm、高さ30cm以上の円筒を轆轤で挽き、1点提出しなさい。

条件：円筒を轆轤挽きする際は必ず亀板を使用すること。

**【問題3】** 制作時間 10:00~12:00

配布された立体表現試験問題を読み、用意された粘土を用いて粘土板上に自由に立体表現しなさい。

### ※注意事項

**【問題2】** と **【問題3】** は試験時間以内に

自由に平行して制作すること。

平成29年度 大学院造形芸術研究科  
生活造形専攻工芸専修 入学者選抜試験  
漆工研究室

【実技試験問題用紙】

試験時間 9：00～12：00

配布物 ・ 解答用紙（黒画用紙 1枚、説明書 1枚）  
・ 草案用紙（白1枚、黒画用紙 1枚）

使用できる用具

・ 素描用具、白色を含む色鉛筆

注意事項 ・ 試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開かないこと。  
・ 定規、コンパス等のその他用具は使用しないこと。

## 問題

- ① 黒画用紙に「風」をテーマとして、加飾を施した作品の完成予想図を描きなさい。
- ② 説明書の項目にしたがって作品の内容を記述しなさい。

※問題に関する質問にはお答えできません。

## 注意事項

- ① 作品本体の色は黒とするが、作品と背景の境界が分かるように白色鉛筆で輪郭線を入れたり背景を着色する等、自由に表現すること。但し、背景すべてを着色する必要は無い。
- ② 加飾部分は、素材や技法が分かり易いように色鉛筆を使い表現すること。
- ③ 箱や分割できる形態の作品は、合口や分割部分が分かるように白色鉛筆の細線で表現すること。また、立体感が感じられるように白色鉛筆で補助的な線や陰影を付けても良い。
- ④ 説明書の「作品の環境」とは、使用又は設置する場所・状況・目的・他者との関わり・その他、作品を取巻く全てを意味する。
- ⑤ 黒画用紙のタテ・ヨコは自由とする。作品の上下が分かるように裏面上部中央に作品上部を示す矢印 ↑ を白色鉛筆で明記すること。